

小諸高校と小諸商業高校が一体になり、新校として生まれ変わる小諸新校プロジェクト。基本計画時点最後の第六回目ワークショップとして、相生会館にて、ワークショップ「新しい高校、どうなりますか？」が開催されました。セミナー形式で、「Live! アンケート」というオンラインの質疑応答ツールを使い、対話形式で実施しました。参加者は、地域住民が約4割、小諸商業高校/小諸高校の生徒さん、先生、OBOGが約3割強、それ以外の方が約3割弱となりました。

まずは長野県教育委員会の柳澤さんから、小諸新校もそのひとつに数えられる「Nagano School Design (NSD)」とは何かについて説明しました。

その後、小諸新校の設計を担当する通称「NOKS (西澤徹夫建築事務所 (N)、奥山尚史建築設計事務所 (O) 小坂森中建築 (K)、都市機能計画室の榊原 (S))」から、榊原が、これまでのワークショップの流れを説明していききました。

その後、一旦「Live! アンケート」を活用した質問タイムへ。途中、参加者から「小諸新校が出来る事で地域住民の方々はどんな事を期待しているのか具体的に伺いたいです。」と他の参加者へ投げかけがあり、「長野県の中の「音楽の都」になって欲しい」「小諸義塾があった時代の風景が蘇ったかのような街。」など、参加者同士の対話が生まれていききました。

その後、一旦「Live! アンケート」を活用した質問タイムへ。途中、参加者から「小諸新校が出来る事で地域住民の方々はどんな事を期待しているのか具体的に伺いたいです。」と他の参加者へ投げかけがあり、「長野県の中の「音楽の都」になって欲しい」「小諸義塾があった時代の風景が蘇ったかのような街。」など、参加者同士の対話が生まれていききました。

相生会館

2023

06

10

SAT

15:00

17:00



今回で基本計画時点では最後のワークショップとなりますが、今後のために、どんな内容、どんな形式だったらワークショップに参加しやすいかを、NOKS から参加者のみなさんに投げかけてみました。「土日祝日の午後が希望」「実際に通うことになるであろう子どもたちの意見が反映しやすくするように、互いの学校でやるのはいかがでしょうか？」など、具体的なアドバイスがありました。

子どもたちの意見が反映しやすくするように、互いの学校でやるのはいかがでしょうか？」など、具体的なアドバイスがありました。



次に、NOKS 代表西澤から、ワークショップを経てどう設計が変わったかをスライドと、模型写真、そして模型そのものを使って説明していききました。「バリアフリーはどうなっているか」「グラウンドが手狭になりませんか?」「トイレは?」など、具体的な質問がありました。



最後に NOKS から「3科融合の意義とこれから」について尋ねると、「音楽科、商業科は特色や活動がイメージしやすい。普通科の立ち位置や特色の出し方が大きなポイント」「他の学科と触れ合える場所などがあるといい」などの思いや、「生徒がそれぞれの科に分かれるのではなく、すべての科の授業を修学できれば、とても素晴らしい学校になるし、意義があると思います」という提案がありました。

今後、基本設計、実施設計、建築工事と完成までは数年間プロセスが続いていきます。よりよい小諸新校づくりのために、ぜひご協力をよろしくお願いいたします。



● お問い合わせ 【主催】長野県教育委員会
【企画運営】西澤奥山小坂森中共同企業体+株式会社都市機能計画室 (通称: NOKS)
【問い合わせ】e-mail: komoro.workshop@gmail.com